

講義名	対)特別講義(流通理論)			授業形態	
担当教員	向山 雅夫	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

現代流通が抱えている課題について説明するとともに、その課題解決に際して必要となる流通理論をしっかりと身につけることが本講義が目指す目標である。流通を学ぶにあたっての理論的問題意識を持ち、そのための基礎を流通科学入門で学んだことを前提に、さらに理論的理解を深めて分析力を身につけなければならない。目標を高く設定し、たとえば高度な流通人になるために、あるいは大学院でより学びを深めていくために、「何となくわかった」状態から「しっかり説明できる」状態に自らの理解の質を高めてもらいたい。本講義は流通を理論的に深く理解したい、最先端の流通現象を自分の力で分析したいという志向を持った学生に、その期待の機会を提供するものである。そこで本講義では、最初に流通システムに貢献する原理の説明から始め、流通という現象がいかに身近でありながら、いかにまか不思議なものであるかを認識してもらう。その後、現代流通を理解するための理論的基礎を知り、さらにそれを元に現実の動きを学ぶ。

到達目標

流通とは何かについて10分間正確に話れるようになる
 流通を説明する理論的基礎を身につくようになる
 現代流通現象を強力に分析できる能力を獲得することができるようになる

提出課題

流通の現実を知り、それを理論的に自力分析するために、レポートを1回実施し、理解度テストを1回実施する予定。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

レポートおよび理解度テストの内容は、何を覚えたのか?ではなく、流通基礎理論をもとにどう考えたか?を問うものである。故に正解はないために、答えを提示することはできない。ただ講義中に、一つの見方を提示する。

評価の基準

講義の前半3分の2は、流通理論をわかりやすく説明する。それがどの程度理解できたかを確認するために、記述式の理解テストを実施する:60点。
 現象を知るためにDVDを見て考え、自分の考えをレポートにまとめる(DVDレポート):30点
 最新トピックスを理論的に理解するための講義を聞いて、その内容理解度をテストする:10点
 以上の合計100点を評価する予定。

履修にあたっての注意・助言他

本講義は、他の講義とは決定的に異なった方法で実施される。

現在学内のほとんどすべての講義はPAVが使用されているが、PAVを使用せず、板書による対面で実施する副読テキストをしているが、その内容を毎週確認するという形式は採用しない。講義内容に即した該当箇所を副読テキストから探し出して、講義を補足することを薦める。以上のことから、講義中はノートを取らずして、内容を理解しつつ、板書を自分なりにノートすることが必須である。ただ黙って聞いている、観察りするだけでは単位取得は不可能である。積極的に「学び取る力」が必要である。講義内容は決してハイレベルではなく、基本中の基本を越わたりやすく説明する。講義中の質問に回答すると、ボーナス点を付与し、また受講生からも自由に講義中に質問することが許される。これぞ本来の大学の講義というスタイルを追求する。

以上の形式での講義であるため、大人数の受講者を相手には講義が成立しにくいという特質がある。それゆえ、受講者人数制限があることに注意されたい。

教員の話聞き、理解し、質疑するというスタイルへ回帰し、大学講義の在り方を見直すきっかけを提

教科書	.使用しない。				
参考図書					

その他

本講義はテキストを使用しないが、講義を理解するために最適な副読テキストとして、原田英生・向山雅夫・渡辺達朗、『ベーシック流通と商業』、有斐閣アルマ、2021.を独自で参考することを強く推奨する。

授業計画

第1回 本講義で何を学ぶのか? (問題意識・講義の特典などのガイダンスを含む)
 第2回 流通原理 流通システムの構成
 第3回 流通原理 -1 流通の階層
 第4回 流通原理 -2 流通の機能
 第5回 流通原理 -1 流通主体
 第6回 流通原理 -2 その分化と統合
 第7回 流通原理 流通・商業・マーケティング
 第8回 流通原理 流通成果
 第9回 流通原理の整理
 第10回 流通原理の整理
 第11回 流通原理理解度テスト
 第12回 現代流通の諸問題 - DVDを見て考える:アパレルの課題-
 第13回 現代流通の諸問題 - DVDレポート-
 第14回 現代流通の諸問題 - ネット小売とは何か-
 第15回 現代流通の諸問題 - ネット小売理解度テスト-

授業形態(アクティブ・ラーニング)

A:PBL(課題解決型学習)	I:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
W:ディスカッション、ディベート	E:グループワーク
O:プレゼンテーション	K:実習、フィールドワーク
○ K:その他(A,L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

伝統的な講義形式にて理論を説明し、受講生は講義から自主的に内容を学び取る。理論だけではなく、理論からみた現実の見方を提示し、受講生はそれに対する自分独自の準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎週の講義に際しては、副読本を専攻上のテキストと同様に認識して、内容を自習してから講義に参加しなければならない。そのために、最低毎週2時間の予習が必要となる。復習としては、講義期間中に理解度テストを実施するので、そのために毎週1時間の復習は不可欠である。

その他、レポート作成には学生の自主性に依存するが、最低数時間が必要であろう。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

流通の世界を知り、流通の世界になぜ?を感じ、そのなぜに対する解を自ら見つけ出すことが求められる。そのためには、流通理論をマスターすることが必要である。理論的に説明することによって流通の世界を理解しようとする3つの到達目標は、この点で共通の達成そのものであると考えられる。社会システムとしての流通を理解することは、本学マーケティング学科の基本中の基本である。単に専門用語を覚えるのではなく、流通を形成する原理を、正しく理論的に理解することによって、流通の歴史と現在が学習可能となり、それによってさらに明日の流通の世界が拓けるようになる。この到達目標はすべて、現実の流通について正しく認識することを通じて達成されるものである。逆に言うと、流通の世界の理論的理解は、流通の現実を知らずには達成されないのである。また流通の世界は日本経済の第三次産業における中核部門である。さらにこのことから、学生の流通業界への興味を刺激し、同分野への就職を熱望するように刺激することもできるに違いない。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

コロナに感染し、通学が困難になった場合には、欠席期間の講義内容については、当該資料の配布により自習してもらうことにする。なおそれが11回目以降であった場合には、直接相談して、不利にならない方法で対処する。